日本動物學會 第 23 回大會記事

日本動物學會第 23 回全國大會は昭和 27 年 10 月 3 日より 3 日間東北大學講堂及び同學第 2 教養部を會場として行われた。東北大學學長高橋里美、理學部長渡邊萬次郎、第 2 教養部主事福本喜繁、宮城縣知事佐々木家壽治、仙臺市長岡崎榮松の諸氏の賛助をえて、準備委員長東北大學理學部生物學教室野村七録及び理學部生物學教室の職員學生、第一、第二、教育の各教養部の職員を準備委員とし、農學部職員、仙臺藥科大學學生などを加えて合計 100 餘名が本大會の世話にあつた。來會者は出席者 387 名講演者 248 名であつた。本大會では講演を 4 會場にわけ、第 1 會場形態學、細胞學、遺傳學、第 2 會場發生學、實驗形態學、第 3 會場分類學、生態學、動物地理學、第 4 會場生理學、生學化、動物心理學などの分科會に近い形式をとつた。講演の分科の區分について準備委員の不馴れのために講演各位に御迷惑の點も多くあつた事と存じここにおわびを申上げる。次に大會の次第にしたがつてその模様を報告する。

10 月 2 日。午前 10 時より日本學術會議動物學研究連絡委員會が第 2 教養部應接室に於て開かれ宮地委員長ほか内田、野村、元村、岡田要、竹脇、佐藤、山本、中村、本庄、阿部、川村、江崎、平岩、上野、高島各委員出席、タイプスペシメンの保存、博物館、臨海實驗所の擴充、連絡委員會の費用、科學技術廳の構想、動物學集報印刷のことなどについて報告及び國際動物命名法委員會、萬國動物學會、ナボリの神經ホルモン討論會などへの代表派遣について協議した。午後 1 時より日本動物學會定例評議會が同所に於て開かれ、會頭岡田要及び内田、野村、元村、竹脇、藤井、佐藤、山本、宮地、中村、本庄、阿部、川村、江崎、平岩各評議員、妹尾名譽會員及び木下幹事出席、次回大會を近畿支部主催と決定、開催地を京都と大阪の何れにするかは同支部に一任した。なほ明後年昭和 29 年の日本動物學會第 75 週年に際し記念事業として本邦動物學の歴史の編纂を内田亨評議員を委員長として計畫することを決定した。その他授賞規約改正の件、國際動物學會出席者推薦の件などを協議し、學會本年度會計の中間報告を承認して散會した。

10 月 3 日 (大會第 1 日)。午前 8 時 30 分より第 1、第 2、第 3 および第 4 會場同時に講演會を開始、午前 11 時より全會員が講堂に集つて總會を開いた。野村委員長の挨拶、岡田會頭の會頭挨拶があつて、藤井幹事より庶務及び前日に開かれた評議員會の決定にしたがつて次回大會開催地の件について報告、木下幹事より會計報告があつて總會を終了、正午會場前廣場で記念撮影を行い、晝食のため休憩に入つた。午後 1 時再び 4 會場に分れて一般講演を行つた。

懇親會。午後 6 時仙臺市レージャセンターに於て懇親會を開いた。岡田會頭はじめ東北大、宮城縣、仙臺市の賛助員を加えて 246 名が出席した。會は富田委員の準備による新機軸の園遊會式にテーブルスピーチを加えて進行し、和やかな氣分あふれる盛會であつた。會の終りに朝日新聞社の好意による中尊寺の記録映畫を鑑賞して午後 8 時散會した。

10 月 4 日 (大會第 2 日)。午前 8 時 30 分より 4 會場に分れて一般講演を行い、午後 5 時無事大會を終了した。本大會に於て座長をつとめられた方々は次の通りである。

(第 1 會場 形態・細胞・遺傳)。村地孝一、柳生亮三、樋渡宏一、森脇大五郎、川村智治郎、妹尾秀實、拓植秀臣、内橋潔、加藤光次郎、阿部余四男、島倉亨次郎、吉松廣延、多羅尾四郎、高木俊藏、大町文衛。
(第 2 會場 實驗形態・發生)。福田宗一、川上泉、箕浦忠愛、沼野井春雄、竹脇潔、碓井益雄、原田五十吉、久米又三、岡田克弘、相山正雄、梅谷與七郎、岡田要、平岩馨邦、中村治、佐藤忠雄、朝山新一、中村健兒、波磨忠雄、花岡謹一郎。(第 3 會場 分類・地理・生態)。岸田久吉、森爲三、江崎梯三、川村多實二、内海富士夫、熊田頭四郎、酒井恒、小泉清明、桑名壽一、尾形藤治、内田一、川島弘、馬場菊太郎、内田亨、湯淺啓温、上野益三、宮地傳三郎。(第 4 會場、生理・生化學・動物心理)。青木廉、細井輝彦、本城市次郎、木村雄吉、澤野英四郎、石田壽老、藤井隆、高槻俊一、下泉重吉、桑原萬壽太郎、八木誠政、川口四郎、木下治雄、小林新二郎、小野嘉明、松井佳一、森和雄、山本時男。

なお同日午後 4 時から東北大學理學部地質古生物學教室會議室で動物學研究連絡委員會の小委員會として動物命名法小委員會を開き、江崎委員長、矢部、内田(亨)、宮地、上野、高島各委員出席、委員長から明年(1953)の國際動物命名法委員會に關連した諸事項につき報告と説明とがあつた。また午後 6 時から東北大學理學部生物學教室講義室で本城市次郎の世話による研究者懇談會が行われた。

10 月 5 日。午前 9 時より 4 會場に分れ綜合討論會開催、午後 3 時終了した。講演は次の通りである。

動物分類學會主催綜合討論會。1. 唇口苔虫分類の現状と疑問、馬渡静夫。2. 後期發生の系統學的重要性、内田亨。3. 直翅類における染色體の分類學的意義、大町文衛。

實驗形態學會主催綜合討論會(再生における極性と側性)。1. 現象の諸問題、佐藤忠雄。2. 渦虫、蚯蚓の移殖と極性、岡田要。

生態學綜合討論會。1. 二化螟虫の生態學的研究と發生豫察、石倉秀次。2. 蜜蜂の歸巢性の解析、桑原萬壽太郎。3. 潮間帶腹足類の運動に關する研究、阿部襄。4. 生態系としての湖沼の研究、上野益三。

動物生理學綜合討論會。(細胞の生理) 1. 色素細胞、木下治雄。2. 卵細胞、山本時男。3. 纖毛細胞、野村七録。(昆虫の生理) 4. 昆虫の化性、福田宗一。5. 昆虫の複眼の機能について、八木誠政。

午後 1 時より仙臺市教育委員會主催のもとにレージャーセンターに於て通俗講演會を行つた。講演は 1. カキ及びその養殖、妹尾秀實。2. 犬と猫、内田亨。3. 鼠の話、岡田要。であつた。仙臺市の一般市民が多數參集して、有益なる内容を熱心に聴講した。

午後 4 時より東北大學第 2 教養部第 1 教室に於て映寫會を行い、映畫は北大牧野佐二郎他の細胞分裂の生體觀察(16mm)、東大木下治雄のメダカの黒色素細胞における膜電位(16mm)、幻燈は北大朝比奈英三のウニの卵の凍結、京大中村健兒のイナゴの精母細胞の成熟分裂の供覧があり、來觀者約 300 名であつた。

10 月 6 日。見學は松島方面は申込者少數のため取やめ、平泉方面の見學のみを行つた。午前 8 時 20 分仙臺驛發 11 時半頃平泉着、及川旅館にて晝食、徒歩にて中尊寺にゆき、それよりバスにて毛越寺、巖美溪をみて午後 4 時 50 分一關驛着解散した。附添として仙臺より平野茂市、永野爲武、東京より森八郎氏が加つた。當日天氣晴朗、1 人の故障者なく快適に見學を終了した。参加者は 37 名であつた。

本大會には會員多數の御出席があつたが、準備委員に色々の點で不行届の多かつた事と思われる。しかし豫想外に順調に進行し、大會を無事終了した事は岡田會頭はじめ、各位の御協力の賜と存じ地元準備委員一同厚く感謝申上げる。また會場その他に萬端の御配慮をいただいた第 2 教養部主事福本喜繁氏及び東北大學事務當局に對し御禮を申しのべる。(元村勳)

形態・細胞・遺傳 (第一會場)

邦産 *Blepharisma undulans* Stein の接合について 鈴木庄一郎 (山形大・教育)

多數の小核を有する Ciliata の接合については Mulsoy ('13) の古い研究があるのみで *B. undulans* についても殆ど知られていない。*B. undulans* は長歪鈴形の大核に密接して平均 14~15 個の小核を有するが接合を始めると小核は大核から離れ第 2 回成熟分裂でその染色體數が半減して 4 個となり、第 3 回成熟分裂で pronuclei が形成される。synkaryon はひきつづく 3 回の分裂後 6 個は大核原基となり他の 2 個は更に分裂して大核原基と小核を生ずる。大核原基の形成が終ると接合對は分離する。多數の大核原基中、通常 2 個は大形、他は小形で始めは Feulgen 陰性であるが ex-conjugant 内に残存する舊大核が崩壊すると共に陽性に變化する。これら大核原基は一時縦に 1 列に排列するが其の際小形原基は大形原基融合する結果、2 核となり更に之らが突起を伸ばして融合して長歪鈴形となる。大形原基數は 1~6 個の變異があり 3 個以上の場合は一旦珠數狀に連絡する。何れにしても他の多くの Ciliata に於ける如く分裂によつて新核原基が